

## 回復期病棟脳卒中患者の運動機能が日常生活動作に及ぼす影響 ～退院時におけるFACT・BBS・FMAと運動FIMの関連性～

○久保田一誠（理学療法士）、垣田 清人（医師）

京都大原記念病院

### 【はじめに】

回復期脳卒中患者における日常生活動作に影響を及ぼす運動機能について検討した。

### 【対象】

2018年10月から2019年3月までに回復期病棟を退院した脳血管疾患患者87名とした。

### 【方法】

退院時の運動機能は(1)FACT(2)BBS(3)FMA 上肢 (4)FMA 下肢を調査し、退院時の日常生活動作は(5)運動FIM 合計 (6)運動FIM 下位項目を調査した。(1)～(4)と(5)の関係は、Spearmanの順位相関係数を求めた。また、(5)運動FIM70点未満/以上、(6)運動FIM下位項目6点未満/以上をそれぞれ非自立群/自立群として、変数増加法ロジスティック回帰分析を用いた検討を行った。

本研究は当院倫理規定に準じて行い、説明と同意を得られた対象者で実施している。当院倫理委員会の承認を得ている。

### 【結果】

(1)～(4)と(5)の相関関係は、FACT(rs=0.80)、BBS(rs=0.88)、FMA 上肢(rs=0.67)、FMA 下肢(rs=0.82)であった。(5)非自立群/自立群の分析では、FACT・BBSが選択された。(6)非自立群/自立群の分析では、清拭にてFACT・FMA 上肢が選択され、下衣更衣にてFACT・BBS・FMA 下肢が選択された。

### 【考察】

運動FIMには、FACT・BBS(バランス機能)が大きく関係する。清拭や下衣更衣など、バランス機能に加え上下肢機能も重要となる。